

世界史 B

1 漢文を手がかりに人物像に迫った授業展開例

<主題> 項羽と劉邦の争いが描かれた漢文を読み人物を中心に歴史的事実をとらえる

<解説> 1年生の古典の時間で学習した「四面楚歌」を中心に、「王侯相将いづくんど種あらんや」や「烏江亭」などの故事成語のもととなった事件をエピソードとともに紹介し、その中に登場する人物たちの生き方、当時の時代背景の理解などをとおして、中国史に興味・関心を持たせ、理解を促す授業とした。

2 ワールドカップを通して国家の形成について考えた授業展開例

<主題> ワールドカップの参加国から世界の諸地域の様子を考察させる

<解説> 日韓共催のサッカー・ワールドカップを利用した授業展開。ワールドカップ本大会の予選リーグは、ヨーロッパ諸国を中心に地域などが考慮されたグループ分けになっており、グループの各国の民族や宗教などの分布を考えることをとおして、ヨーロッパ史の学習の導入の授業を意図した。ビデオ教材なども用い生徒の興味・関心を高めた。

3 世界地図を利用して生徒に主体的に思考・判断させる授業展開例

<主題> 地図にみる世界史の変遷を古代から近代まで考察する

<解説> 「世界史への扉」の部分の授業で、各時代に描かれた世界地図を考察することをとおして、各時代の人々の世界観や背景を理解し、世界史全体に興味を持たせることを意図した。古代から大航海時代にいたる歴史の中には暗黒時代といわれる時代も存在していることなどが明らかとなり、生徒も興味深く学習に取り組んだ。ただ、理解度を深めるのであれば、3年生の終わりの主題学習に設定すると歴史の変化もよくわかり非常に効果的であると思う。

4 スポーツの歴史を主題に自ら研究・発表することを目指した授業展開例

<主題> 自分がプレーしているスポーツの発生や変遷、日本への伝来を調査する

<解説> 自分がプレーしているスポーツ、好きなスポーツに関して、共通のテーマを設けて調べ学習を行い、個々の生徒がその内容について興味や関心を持てるように配慮した。スポーツは、日本と世界とのつながりを考察させる上で生徒が興味や関心をもって取り組みやすい題材である。コンピュータを利用して、インターネットによる資料収集、発表のまとめの作成を行ったが、普通科の生徒でも技術的な進歩の度合いは早く、成果が上がった。